

アクセス網専門委員会

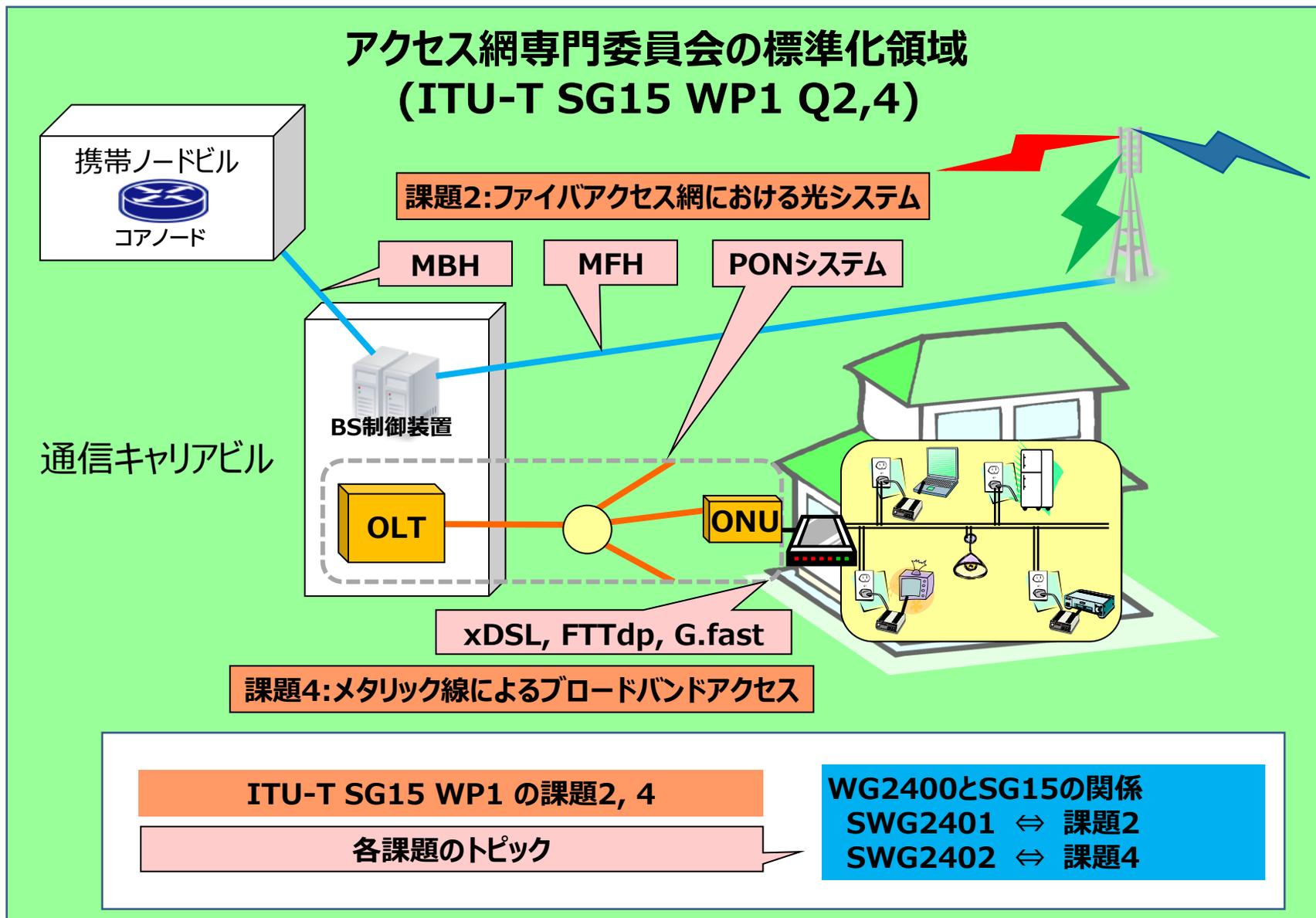
中期標準化戦略(概要と目的)

専門委員会・AG名

アクセス網専門委員会

1/3

<p>企画戦略委員</p>	<p>企画戦略委員：張 亮 (ソフトバンク株式会社)</p>	<p>登録委員数</p>	<p>60人</p>
<p>委員長・副委員長/ リーダー・サブリーダー</p>	<p>委員長：岡崎 浩治 (ソフトバンク株式会社) 副委員長：原 孝成 (ノキアソリューションズ&ネットワークス合同会社)</p>	<p>担当するSG・WP等</p>	<p>ITU-T SG15 WP1</p>
<p>活動の目的・意義 ・めざすゴール</p>	<ul style="list-style-type: none"> 光アクセス関連の標準化動向(Q2/SG15、BBF等)を継続把握し国内へ展開 TR(技術報告書)／セミナー等で動向を可視化・共有 50G/100G+、セキュリティ・省電力、TDM-PON等の重点領域を整理 FTTdp (Fiber To The distribution point) などの光ファイバとメタリック回線のハイブリッドアクセス網や将来の移動体網のRAN (無線アクセスネットワーク) のための光アクセスアプリケーション技術の検討。 	<p>活動体制の図解 (専門委員会/SWGと対応するSG/技術トピックス、関連する団体等)</p> <p style="text-align: center;">別 紙</p>	
<p>活動する上での課題 (人材面や運用面での課題を含む)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 100G+(G.suppl.VHSP)はAgreement到達も文書未公表で内容整理が難しい 技術テーマの増加(特にAI)に伴い、継続ウォッチとアウトプットの優先度付けが必要 		
<p>関連のSDGsゴール</p>			
<p>標準化方針</p>	<p>【SWG2401 光アクセス網関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> 次世代移動体網のアクセス網構築に貢献するため、次世代移動体網のフロントホール/バックホール(MFH/MBH)におけるアクセス網の課題に関する調査を行う。今後、必要に応じてITU-T SG15/Q2で議論されている100G超の次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動を行なう。 <p>【SWG2402 DSL関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> xDSL、G.fast、G.mgfastの技術動向の調査を継続し、必要に応じて活動報告会などを開催し報告する。また、スペクトル管理標準に関しては新たな課題の出現時に個別に対応する。 		
<p>国内外の標準化団体等の動向</p>	<p>【SWG2401 光アクセス関連】</p> <p>次世代の光アクセスシステムについては、5G移動体網のMFH/MBHに適用するシステムの議論が行われ、ITU-T SG15では一波長当たり50GPONから100G超級のPONシステム、低遅延化技術、高信頼化技術、光ファイバ無線(G.RoF)などの検討が進められている。ITU-T Q2/15へのG.Sup.VHSPの提案に対しても対応する。</p> <p>【SWG2402 DSL関連】</p> <p>ADSLやVDSLの国際規格としては、ITU-TにおいてG.fast、G.mgfastの検討が活発であり、ホームネットワーク関連のサービスの物理レイヤーについての協議が実施されている。</p>		



新テーマ及び重点取り組み・活動成果・課題解決に向けた取り組み

【SWG2401】

- アクセス網を媒体に関係なくメタル、光ファイバによる無線区間以外の有線ネットワーク全般ととらえ、特に次世代移動体網のフロントホール/バックホールにおけるアクセス網の問題点を検討し、必要に応じてITU-T SG15 Q2で議論されている次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動の実施。
- G.hspやG.suppl文書で移動体網の伝送に光アクセスシステムを活用するための個別テーマでの検討が進んでおり、その検討状況について調査し、寄書を行った。

【SWG2402】

- ハイブリッドアクセス網SWGでは、G.fast 等 の新規技術の調査するとともに海外の導入事例等の調査継続した。

関連する専門委員会または外部組織とその内容

5G及び6Gとの連携を深めるために3GPP専門委員会及び光ファイバ伝送専門委員会の活動を考慮した対応を実施した。

主な活動項目	概況指標	2025年度目標(当初計画時)	2025年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	ITU-T SG15 WP1 年2回予定(各会合で1件以上)	ITU-T SG15 WP1 (2025年10月):2件 ITU-T SG15 WP1 (2026年3月):0件	
	外部会合への参加・連携状況	ITU-T SG15 WP1 年2回の会合へ参加予定	2025年10月に実施され、2026年3月に予定しており、2月に専門委員会を実施予定	
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 新たな技術レポートの作成	0件/1件/0件 TR-1110「2023～2025年の光アクセス関連技術の標準化動向に関する技術報告書」	
③ ダウンストリーム	数	TS: 回 TR: 回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	100G超のアクセス技術の動向についてセミナーを実施することを検討したい。	今年度は見送りをした	
	記事投稿、講演会			

重点取り組み・想定される課題と課題解決に向けた取り組み

【SWG2401】
光ファイバによる無線区間以外の有線ネットワーク全般ととらえ、特に次世代移動体網のフロントホール/バックホールにおけるアクセス網の問題点を検討し、必要に応じてITU-T SG15 Q2で議論されている次世代光アクセスシステムへのアップストリーム活動の実施。
G.hspやG.suppl文書で移動体網の伝送に光アクセスシステムを活用するための個別テーマでの検討が進んでおり、その検討状況について調査し、寄書を実施。PONシステムのセキュリティ、省電力化やモバイルフロントホールのためのTDM-PONなどが検討あり、光アクセスシステムでのAIのユースケースの検討が進展

【SWG2402】
ハイブリッドアクセス網SWGでは、G.fast 等 の新規技術の調査するとともに海外の導入事例等の調査継続。また、スペクトル管理標準に関しては新たな課題の出現時は個別に対応。

新テーマ

- 光アクセスシステムにおけるAI活用(ユースケース検討)
- NTTメタリック外線の2035年サンセットへ、EMI評価と撤去・資源化ガイドの標準化を推進

関連する専門委員会または外部組織とその内容

- 6Gの検討状況を確認してアクセス網について検討を実施するために、3GPP専門委員会及び光ファイバ伝送専門委員会との連携を強化
- AI活用(ユースケース)を検討するために「AI標準アドホックグループ」への参加などを検討

主な活動項目	概況指標	2026年度目標(当初計画時)	2026年度実施状況	記事
① アップストリーム 他団体との連携	寄書数	ITU-T SG15 WP1 年2回予定(各会合で1件以上)	-	
	外部会合への 参加・連携状況	ITU-T SG15 WP1 年2回の会合へ参加予定		
② ドキュメント作成 国内標準 仕様書 レポート	JJ標準			
	TS/TR/SR	0件/1件/0件 Q2/SG15やBBFでの検討状況を見ながら、標準化動向に関する技術報告書	0件/0件/0件	
③ ダウンストリーム	数	TS: 回 TR: 回	TS制定 TR制定:	
④ プロモーション 普及推進	セミナー	G.suppl.VHSPの状況でセミナーを2026年に実施		
	記事投稿、講演会			